

2022年8月5日(金)

老球の細道682号

ミニバスケットボールにおけるチームプレイ

会津バスケットボール協会 室井 富仁

近所に引っ越してきた家の駐車場にバスケットゴールスタンドが設置された。夏休みに入ってから毎日、子どもたち数人でバスケットボールを楽しんでいるようである。どこのチームの子どもたちか確認したくて傍まで近づいて見ようとしたが、余計なおせっかいをされると嫌われるので、「星飛雄馬の姉」でスルーをして散歩に出かけている。

ミニバスの選手たちはすべてがバスケットを初心者から始めるので、よほど鍛えられているチームでない限り、ゲームの様相は皆似たような状況である。一方のチームがボールを得たと思ったら次の瞬間、ボールは他のチームに渡っている。ドリブルを始めようとした途端、ボールは相手チームに奪われている。どちらのチームが攻めて、どちらのチームが守っているのか混沌している。ボールには常に人ばかりである。

このようなゲームの様相を見ると、バスケットボールの本質であるチームプレイ、チームワークなどを教えられるのか疑問に思うときがある。また、プレイヤーもチームプレイの醍醐味など味わうことなく、上手な人たちだけの個人プレイでゲームがで終わってしまうことに満足しているのだろうか。バスケットボールの入門時に、将来の人材たちが、このようなゲームの繰り返しで、果たしてこの競技に魅力を持ち続けられるだろうか。

ミニの時代はコーディネーショントレーニングや個人技などを指導すれば良いと言われているが、個人技が上達し、1人1人が一生懸命走ってプレイすれば、それでよいのだろうか。私は否である。バスケットボールは5対5のゲームであり、チームスポーツであることを忘れてはいけない。チームプレイの醍醐味も味わってほしいと思う。

個人個人という存在が際立ってチームとしてまとまっていくためにも、個人技の充実に加えてチームとしてのプレイがなくてはならない。チームとしてまとまってチームプレイをするためには、個人技と個人技を繋ぐ技術、動き、チームルールなどが必要になる。ここがバスケットボールの難しさであり、魅力であり、そして奥深さである。ミニも高校も日本代表も同じである。

鈴木新氏、二瓶誠二氏率いる坂下ミニバスケットチームは毎年同志チームを集めて「坂下キャンプ」なるリーグ戦を年3回開催している。試合の前に午前中は毎回クリニックを開催し、午後にクリニックで学んだことをゲームで確認するというコンセプトの下で実施されている。6月に第1回がすでに終了した。

今年も私がクリニックの講師に委嘱された。今年のテーマは「チームオフenseファンダメンタル」。ミニバスに不可欠の「パス&バスケットカット」「ドライブ&スペーシング」「オールコートキャスティング(LMU)」などを指導する。

子どもたちにとってバスケットボールを通じて学習してほしい重要なキーワード「チームワーク」。チームルール、チームプレイのないところで「チームワーク」は学べない。